

新規事業・事業投資プロジェクトを成功に導く
 基本フレームを身につける実践講座

経営・マネジメント

事業性評価と意思決定の進め方

仮説・定量分析・シミュレーションを活用し「リスクとリターンを見極める手法」を学ぶ

セミナーのねらい

事業はなぜ失敗するのでしょうか。それは、「事業は仮説が外れると失敗する」と定義することができます。仮説とは、事業の成功に必要な条件のことで、例えば「この製品を市場に最初に投入できれば」「30%のコストダウンが実現出来たら」などの「たら・れば」が仮説です。

このような事業の成功・失敗を左右する仮説を明確にし、起こりうるシナリオを分析・シミュレーションしていくと、事業計画のポイントがシンプルで、わかりやすくなります。シナリオ分析によってリスクとリターンに関する理解を深め、仮説が大きく外れるのを防いでいくと、事業が成功する確率を高めることができます。

この講座では、こうした仮説を明確にし、シナリオをシミュレーションして事業計画に落とし込み、実行管理していくことで、事業を成功に導いていく方法論を学びます。具体的には、米国で開発された仮説指向計画法のポイントを理解したうえで、これらの理論をベースにしたWhat-If分析、感度分析、リスク分析などの重要な分析・シミュレーションの基本と活用法を身につけていただきます。また、実際に使うときのイメージがつかめるよう、一人一台のPCを使い、分析・シミュレーションを演習します。

この手法は、設備投資、研究開発投資、M&A、新規事業など、これまで取り組んだことのない、新たな事業への投資に有効ですが、既存事業・海外事業・子会社などの事業構造を改めて整理し、管理を進めていく際にも役立ちます。

事業プランを説明しなければならない立場の方、事業の意思決定を行うマネージャー、経営幹部、経営企画や管理部門の方など、広く事業の計画・管理に携わる方々に役立つ、事業投資、事業計画の実践プログラムです。

小川 康氏

インテグレート代表取締役



1989年東京大学工学部都市工学科卒業、東京海上火災保険入社。米国ペンシルバニア大学ウォートンスクール修了(MBA、起業学・ファイナンス)。Wharton SBDC(米国)、ブーズ・アレン・ハミルトンを経て、インテグレート入社。2008年より現職。製造業・ベンチャー企業を中心とした戦略コンサルティング及び、投資ファンドを顧客とした財務分析の経験に基づき、ビジネスシミュレーションを活用した事業投資支援コンサルティングとシミュレーション手法の企業への導入支援を提供。製薬、電力、ガス、化学メーカーなどで豊富な実績を持つ。1999年から2001年までの2年間、仮説指向計画法(Discovery-Driven Planning)の開発者であるペンシルバニア大学マクミラン教授の研究センターに勤務、直接指導を受ける。著書に『不確実性分析実践講座』(ネクスプレス、共著)。

プログラム

- はじめに: 未来の数字は、すべて仮のもの
この扱いにくい数字をどのように組織で共有し、管理するか
- 新規事業計画の理論: 仮説指向計画法
(Discovery-Driven Planning)
- 事業投資の課題、
業務プロセスと10のチェックリスト
- 事業の立案、リスク評価のための
分析・シミュレーション手法
- 事業性評価・意思決定手法の活用事例
- 質疑応答とまとめ

日時

2019年12月17日(火)

10:00~17:30

会場

ネクストワークス
ラーニングセンター

受講料

57,200円(税込み)

対象者

マネージャー、リーダー、経営者、
経営幹部、次世代幹部、部長、課長、中堅、
起業家、執行役員、事業部長、女性

レベル

実践

受講者からのコメント

- 「仮説を共有し、検証、レベルアップしていくことの重要性がわかった」
- 「ツールを使うことで複雑、不可能と思っていた分析がすぐに行えるようになった」
- 「現場感のある説明・解説が参考になった」

WEB検索番号: P1901722